

【出題パターン】

(ア) 4 (イ) 2 (ウ) 3 (エ) 3

【解説】(ア)「彼は世界中で知られている音楽家です」〈名詞+過去分詞+語句〉「～されている…」
(イ)「あなたは1か月にどのくらい頻りに(何回)図書館へ行きますか」頻度をたずねるときは how often を使う。(ウ)「私たちは今日宿題をする必要はありません」have to ～の否定形は don't have to ～。
(エ)「リサ、今週末どこか訪れた場所がありますか」あとにくる名詞が複数(any places)なので、are there ～となる。

【練習問題】

1 (ア) 3 (イ) 4 (ウ) 1 (エ) 3 (オ) 1 (カ) 3 (キ) 1 (ク) 4

【解説】(ア)〈Who+一般動詞～?〉「だれが～か」の疑問文には、〈主語+do(does, did), 〉で答える。
(イ)「私が部屋に入ったとき、兄(弟)はギターを弾いていました」過去進行形。(ウ)動詞が原形であることに着目する。「ジョンはいつここに到着する予定ですか」という未来を表す疑問文。(エ)「あなたのお母さんは今までに中国へ行ったことがありますか」経験を表す現在完了の疑問文。have(has) been to ～で「～へ行ったことがある」。なお、visited の場合はあとに to は不要。(オ)「昨日、あなたのお兄さん(弟さん)は図書館にいましたか」yesterday があるので、be 動詞の過去形を使う。(カ)「昨夜はたくさんの星が見られました」受動態 (be 動詞+過去分詞) の文。see—saw—seen (キ) May(Can) I ～? は「～してもいいですか」と相手に許可を求める表現。(ク) Will(Can) you ～? は「～してくれますか」と相手に依頼する表現。

2 (ア) 2 (イ) 3 (ウ) 2 (エ) 4 (オ) 1

【解説】(ア)「私の母は父よりも忙しい」〈比較級+than…〉で「…よりも～」busy の比較級は、y を i にかえて er をつける。(イ) than …に着目する。「この花はあの花よりも美しい」beautiful の比較級は、前に more を置く。(ウ) Which do you like better, A or B? 「あなたは A と B でどちらのほうが好きですか」(エ)「これは公園のすべての木の中でいちばん大きいです」「いちばん～、最も～」は最上級で表す。(オ)「タカシはあなたと同じくらい上手に英語を話すことができますか」〈as+原級+as…〉「…と同じくらい～」

3 (ア) 3 (イ) 2 (ウ) 4 (エ) 1 (オ) 4 (カ) 2 (キ) 2

【解説】(ア)「外国語を勉強することはおもしろい」動名詞が主語の文。(イ)「ボブ、あなたに聞きたいことがあります」to ask (you) は形容詞的用法の不定詞で、something を後ろから修飾している。
(ウ) told は tell の過去形。〈tell+(人)+to+動詞の原形〉「(人)に～するように言う」(エ) enjoy は動名詞を目的語にとる動詞。enjoy ～ing 「～して楽しむ」(オ)前置詞のあとには(代)名詞または動名詞がくる。How about ～ing? 「～してはどうですか」(カ)「私の兄(弟)は17歳のときにアメリカに行こうと決めました」decide は目的語に不定詞をとる動詞。(キ)「次に何をしたらよいか私に教えてくださいませんか」〈what to+動詞の原形〉「何を～するか、何を～したらよいか(すべきか)」

4 (ア) 1 (イ) 3 (ウ) 2 (エ) 4

【解説】(ア)「あなたたちは知り合ってどのくらいになりますか」期間をたずねるときは how long を使う。
(イ)「これはだれの自転車か知っていますか」「ああ、私の母のです」所有者は whose でたずねる。
(ウ) 2つのものの中で「1つは～、そしてもう1つは～」と言う場合は、one と the other で表す。
(エ) anything は否定文で「何も(～ない)」の意味。

5 (ア) 2 (イ) 4 (ウ) 2 (エ) 4 (オ) 3

【解説】(ア)「窓のそばに立っている少年はマコトです」「～している」の意味で名詞を修飾するときは現在分詞(～ing)を使う。(イ)「彼はときどき、やさしい英語で書かれた本を読んで楽しめます」「～された」の意味で名詞を修飾するときは過去分詞を使う。write—wrote—written (ウ)「英語をとても上手に話している男の人は私のおじです」先行詞(The man)が〈人〉で、あとに動詞がくるので、主格の関係代名詞 who を使う。(エ)「彼女は私のわからない外国語で答えました」先行詞(a foreign language)が〈もの〉で、あとに〈主語+動詞〉がくるので、目的格の関係代名詞 which を使う。(オ)「あなたがそこ

で見かけた少女は私の姉(妹)です」先行詞(The girl)が〈人〉で、あとに〈主語+動詞〉がくるので、目的格の関係代名詞 that を使う。

6 (ア) 2 (イ) 1 (ウ) 3 (エ) 3

【解説】(ア)〈on+日付〉「(～月～日)に」(イ)「彼女は6歳のときにピアノを弾き始めました」
(ウ)「もし明日晴れなら、私たちは山に行くつもりです」(エ)〈during+(夏休みなどの)特定の期間〉「～の間に」

7 (ア) 3 (イ) 2 (ウ) 4 (エ) 4 (オ) 2

【解説】(ア)「ヒロコはまだあなたの手紙を読んでいません」(have(has) not+過去分詞 … yet)「まだ～していない」完了を表す現在完了の否定文。(イ)「私はまたナンシーに会うことを望んでいましたが、会えませんでした」hope は目的語に不定詞をとる動詞。(ウ)「スタジアムにいた多くの人々がその試合を見てとても興奮していました」excited 「興奮して、わくわくして」exciting は「興奮させる、わくわくさせるような」という意味。(エ)「テーブルの上のリングはジュースを作るのに使われました」受動態の文。主語は The apples (on the table) で複数なので be 動詞は were。(オ)「あの女の人、私が長い間ずっと会いたかったミュージシャンです」a musician を〈主語+動詞〉が後ろから修飾している。目的格の関係代名詞(that)が省略された形。

8 (ア) 3 (イ) 2 (ウ) 4 (エ) 1 (オ) 4 (カ) 2

【解説】(ア)「ジム、あなたはもうレポートを書き終えましたか」finish は動名詞を目的語にとる動詞。
(イ)「午前中雨が降っていたので、私たちは正午まで(ずっと)ホテルにいました」until 「～まで(ずっと)」by は「～までに」と期限を表す。(ウ)since ～があるので、継続を表す現在完了の文。「トムと私は幼い少年のころからずっとよい友達です」(エ)数をたずねるときは〈how many+名詞の複数形〉を使う。「その動物園に何種類の動物がいるか知っていますか」(オ)主語が This medicine で動詞が take 「とる、飲む」なので受動態。助動詞がある受動態は〈助動詞(should, will, can など)+be+過去分詞〉の形。「この薬は1日に3回飲まなければなりません」take—took—taken (カ)「私たちはどこでバスを降りたらよいかわかりませんでした」〈where to+動詞の原形〉「どこで〔～〕～したらよいか」

9 (ア) 1 (イ) 2 (ウ) 3 (エ) 2 (オ) 2 (カ) 4

【解説】(ア) a few は数えられる名詞に使う。〈a few+名詞の複数形〉で「少数の～」数えられない名詞には a little 「少量の」を使う。(イ)「私たちがそこで出会った子どもたちはとても親しみやすかった」主語は The children (we met there) で複数。4はあとに very がくるので不適切。(ウ)Why don't you ～? は「～してはどうですか、～しませんか」と相手に提案したり、相手を誘ったりするときの表現。
(エ)「私は昨日、書店で旧友に会って驚きました」to meet (my old friend at the bookstore) was surprised の原因・理由を表す副詞的用法の不定詞。be surprised to ～「～して驚く」(オ)「マキが帰宅したら、私の伝言を伝えてください」when ～「～するとき」や if ～「もし～ならば」など、〈時〉や〈条件〉を表す副詞節では、未来のことも現在形で表す。(カ)「いいえ、その必要はありません」と答えているので、「(私は)～しなければなりません」とたずねる文にする。

10 (ア) 1 (イ) 4 (ウ) 2 (エ) 1 (オ) 3 (カ) 1

【解説】(ア)「～ですな」と堅く念をおす言い方(付加疑問)。肯定文につける場合は〈否定の短縮形+主語(代名詞)〉の形。is → isn't, This book → it (イ) so → that …「とても～なので…」(ウ) Shall I ～? は「(私が)～しましょうか」と申し出る表現。(エ)前置詞のあとには(代)名詞または動名詞がくる。be good at ～ing 「～するのが得意(上手)である」(オ)「私の兄(弟)は大学で音楽を勉強するためにフランスへ行きました」目的を表す副詞的用法の不定詞。(カ)「ここは、10年前に私たちが訪れた都市です」the city を〈主語+動詞〉が後ろから修飾している。目的格の関係代名詞(which または that)が省略された形。

11 (ア) 1 (イ) 2 (ウ) 3 (エ) 1 (オ) 4 (カ) 2

【解説】(ア) used に着目する。「英語は世界の多くの国で使われていますか」という受動態の疑問文。
(イ)「友達に私が鳥をくれました。でも私はその世話のしかたがわかりません」〈how to+動詞の原形〉「どうやって～したらよいか、～のしかた」と申し出る表現。(エ)take care of ～「～の世話をする」(ウ)「伝言を残したいですか」would like to ～「～したいと思う」Would you like to ～? で相手の意向をたずねる表現。
(エ)〈(the+最上級+of(in)…)〉で「…の中で最も～」あとに続く語句が複数を表す場合は of を、場所や範囲を表す場合は in を使う。(オ)「自転車で通学するときには注意しなさい」be 動詞の命令文。
(カ)「2人の男の子といっしょに歩いている女性は私のおばです」主語は The woman (walking with

two boys)で3人称単数。

- 12 (ア) 4 (イ) 3 (ウ) 2 (エ) 3 (オ) 3 (カ) 1

〔解説〕(ア)「私は、ベーকারさんのパーティーがいつ聞かれるのを知りたい」 未来の受動態〈will be + 過去分詞〉。hold—held—held (イ)「あなたはどのくらい長野に滞在する予定ですか」〈be going to + 動詞の原形〉「～するつもりである」 (ウ)「あなたにとってすべての中で最も大切なものは何ですか」importantの最上級は、前にmostを置く。(エ)「私はたいてい歩いて学校に来ます。でも今朝はとても激しく雨が降っていたので、バスで来ました」becauseは「(なぜなら)～だから」と理由を表す接続詞。(オ)「マサコによって作られたケーキはとてもおいしかった」The cakeをmade by Masakoが後ろから修飾している。(カ)「私の母の名前はマキコで、父は彼女をマコと呼びます」call A B「AをBと呼ぶ」

- 13 (ア) 2 (イ) 3 (ウ) 4 (エ) 3 (オ) 4 (カ) 4

〔解説〕(ア)「ヨーロッパ中を旅行したときに私が撮った写真を、あなたに見せてあげましょう」the picturesを〈主語＋動詞〉が後ろから修飾している。(イ)「スーザンはクラスのほかのどの生徒よりも上手にテニスができます」wellの比較級はbetter。(ウ)「彼が入ってきたとき、教室には何人かの生徒がいました」あとにくる名詞が複数(some students)で、時制は過去なので、There were ～となる。

(エ)「木の下で本を読んでいる女の子はだれですか」the girlをreading a book under the treeが後ろから修飾している。(オ)「グリーンさんにとって日本語の名前を覚えるのは簡単ではありません」It is ... for — to ～、「～にとって[～が]～するのは…だ」(カ)「私は長い間彼に会っていません」継続を表す現在完了の否定文。

- 14 (ア) 1 (イ) 4 (ウ) 1 (エ) 2 (オ) 2 (カ) 1

〔解説〕(ア)「何が彼女を有名にしたのですか」make A B (B＝形容詞)「AをB(の状態)にする」

(イ)「話すのをやめて、私の言うことを聞きなさい」stopは目的語に動名詞をとる動詞。stop ～ingで「～するのをやめる」。stop to ～は「～するために立ち止まる」という意味になる。(ウ)「私はそれ(＝このテレビゲーム)のやり方がわかりません」〈how to＋動詞の原形〉「どうやって～したらよいか、～のしかた」

(エ)「私にはオーストラリアで日本語を教えている姉(妹)がいます」主格の関係代名詞whoのあとにくる動詞は、先行詞(a sister)に合わせるので、3人称単数・現在形。(オ)be interested in ～ing「～することに興味(関心)がある」(カ)「あなたはこの歌を今までに聞いたことがありますか」経験を表す現在完了の疑問文。